

[017] ICER Newsletter

<https://doi.org/10.15017/1807634>

出版情報 : ICER Newsletter. 17, pp.1-, 2015-10. 九州大学附属図書館付設教材開発センター
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」 JMOOCで受講者募集中です！



九州大学教材開発センターでは、オープン・エデュケーションの画期的な教育方法である MOOC に積極的に取り組んでおります。本年は、九州大学サイバーセキュリティセンター長の岡村耕二教授が「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」を開講します。この MOOC では、サイバー空間を快適に過ごしていくために、身につけておくべき様々なサイバーセキュリティの知識について勉強します。第 1 週目は「検知できないサイバーセキュ

リティ脅威」、第 2 週は、「新たなサイバーセキュリティ対策」、第 3 週は「サイバーリスクを回避するための新しい体制作り」について学習をします。講義は取り組みやすい 3 週間の長さで、スマホやタブレットを使ったモバイル・ラーニングも可能です。また、日本語の講義に日本語と英語の字幕を装備した JMOOC の講座です。是非この機会に、サイバーセキュリティについて新しい知識を身につけ、ネットライフに活かしましょう！

ただいま、JMOOC で受講生募集中です。みなさんのご参加をお待ちしています。

JMOOC ▶ <http://www.jmooc.jp/>



【安西 弥生 准教授】

MOOC

大規模公開オンライン講座 (Massive Open Online Courses) の略語。インターネットを使い、誰でも受講できる無料のオンライン講座で、大規模であることと開かれている (オープン) であることを特徴とする。修了要件を満たせば修了証が交付される。

※画面は開発中のものです。実際とは異なる場合があります。

M2B学習支援システム講習会を開催しました



8 月～9 月の間に計 7 回、馬出・大橋・箱崎・伊都キャンパスにてこのシステムの講習会を開催し、84 名の方にご参加頂きました。説明会後のアンケートでは、約 9 割の参加者が「このシステムを使いたい」と回答しました。本システムでは e ラーニングシステム (Moodle) によって、小テスト、資料提供、レポート受取、アンケート、出席などを電子的に行えます。また、デジタル教材配信システム (BookLooper) との併用により、その閲覧履歴等から学習状況の把握ができます。e ポート

フォリオシステム (Mahara) では、授業日誌の記録により、教員は教材や教育方法の改善、学生は講義内容の振り返りが行えます。

このシステムの説明マニュアル、利用の申込は以下 URL にアクセス下さい。

お申し込みはこちら ▶ <http://m2b.artsci.kyushu-u.ac.jp>

【緒方 広明 教授(協力教員)】



着任のご挨拶



准教授
松隈 浩之

1994年九州芸術工科大学画像設計学科卒業。1996年同大学大学院情報伝達専攻修了。1997年凸版印刷株式会社入社、グラフィックアートラボラトリー（GALA）にて3DCGデザイナーとして勤務。2003年九州芸術工科大学に教員として着任し、九州大学と統合後、現職に至っています。2009年に産官学連携事業としてシリアスゲームプロジェクトを開始し、現在も医療・ヘルスケアのテーマで継続しております。福岡はデジタルコンテンツが盛んな地域ですので、これからも企業や自治体など様々な方々と共に、シリアスゲームの分野を盛り上げ、人材育成や産業拡大へとつなげていきたいと考えております。



准教授
池田 大輔

本年4月から当センター協力教員となりましたシステム情報科学研究院の池田大輔です。データベースやマイニング等、データの利活用に関する研究に取り組んでいます。ICTを用いた教育も盛んで、教育に役立つデータの利活用に興味がある一方、教育面では、独自に反転授業やインタラクティブな講義を実践してきました。大人数向けに研究室で掲示板を自作し、改良もしています。他にも、高校の出前授業や小中学生向け科学イベントで、身近だけど実体がよく分からない情報を科学的に楽しく伝えられるような取り組みもしてきました。当センターの活動にこれらの経験を活かし、また、教育や教材開発で新しい経験ができることを期待しています。

次世代の教材開発を支える技術

～ハンディ型3Dスキャナー～

今回紹介するのは、ハンディ型の3Dスキャナー「Sense」です。このコーナーでは、以前も3Dスキャナーを取り上げさせていただきましたが、今回の3Dスキャナーは持ち運びなどの点で手軽に利用できる点を重視した製品です。基本的な動作原理としては、大型の3Dスキャナーと同様に、赤外線レーザーとカメラを利用して測定対象の形状を計測します。大型の3Dスキャナーより測定精度は劣りますが、キャリブレーションなどの細かい設定を必要としない上に、ポータブル性に優れているため手軽に形状の測定を行うことが出来ます。測定範囲としては、最少20cm四方の立方体から、最大3m四方の立方体まで測定することが可能です。

教材開発センターでは、歴史教育の教材資料を制作するために、歴史的価値のある物体の形状を3Dスキャナーで測定して史料のデジタルアーカイブに取り組んでいます。ハンディ型3Dスキャナーを活用して教材資料を制作してみたい方がいらっしゃいましたら、是非私達と一緒に共同研究をしてみませんか。ご連絡お待ちしております。



【金子 晃介 助教】

「医学の歴史に関する電子教材」

教材開発センターでは、医学研究院と医学歴史館と共に、九州大学基金助成事業のプロジェクトとして「医学の歴史に関する電子教材」に取り組んでいます。このプロジェクトには2つの大きなミッションがあります。

1つは、九州大学100年の歴史の中で積み上げられてきた様々な医学史料を整理することです。この作業では、史料の内容を調査し保管するだけでなく、電子教材などに利用できるように史料のデジタル化の作業も行っています。デジタル化の作業では、3Dスキャナーを用いて史料の形状の測定を行い史料のデジタルアーカイブに取り組んでいます。もう1つのミッションは、整理された史料を利用して、医学部の学生や医学歴史館を訪れた来館者の方に、医学の歴史に興味を持ってもらうための教材を開発することです。現在は、医学史料の整理を重点的に行っていますが、史料の整理を通じて医学の歴史やアーカイブの方法に興味を持ってもらう目的で、医学部やライブラリー



サイエンス専攻の学生と協働で史料の整理を行っています。本プロジェクトで開発した教材は、今年度中に医学歴史館のIT展示室にて公開される予定です。

【金子 晃介 助教】

電子教材著作権講習会を開催します

録画した講義を公開したり、講義資料や学習資料をウェブで共有したりするとき、教材に「他人の著作物」が含まれていると、著作権への配慮が必要です。電子教材に含まれる他人の著作物の使用許諾申請や著作権者のガイドラインに基づく点検、教材作成者側のガイドライン提案など、これまでの経験や疑問をシェアしたいと思います。ご希望の題材を取り上げてお話いたしますので、ご要望を申込みフォームにご記入ください。ご自分の教材をお持ちいただくことも可能です。また、協調学習など学習資料をウェブで共有している学生のみなさんの参加もお待ちしております。

病院 10月6日 16:00～17:30 総合研究棟2階201 セミナー室

お申し込みはこちら ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20150911